

事業所名

グループホームのどか

(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日付

平成17年 3月23日

評価機関名

㈱東京リーガルマインド

(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

評価調査員

A:現職 医療施設管理者
資格・経験 社会保険労務士、社会福祉主事、病院施設管理者歴10年、介護老人保健施設事務長2年、特別養護老人ホーム生活相談員歴3年以上
B:現職 看護師
資格・経験 看護師(37年以上)、介護支援専門員

自主評価結果を見る

(事業者の自主評価結果にリンクします)

評価項目の内容を見る

(評価項目にリンクします)

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か(記述)		
	○「生活感覚」を大切にし入居者個々の自然のままの生活リズムを支える援助が出来るように職員個々が自分自身の介護の価値観を持って「自律」して支援することを重視している。 ○入居者がその人らしく生活しようとする『人としての当たり前の思いに』応える介護を目指し、人が自然に生きるための「援助と環境」作りを基本としていた。どんな方にも明るい表情で動じず個々の言動に丁寧に丁寧に対応されている職員の態度から「個人の尊厳」を尊重していることがうかがえた。 ○その人らしさを支える個別の介護を提供するには、その方の生活歴、性格、気質に合わせてニーズを把握し、個々に合った対応の仕方をする事で精神的に落ち着いて生活できる場づくりに努めている。 ○入居者の過去の生活歴・経験を踏まえ、現在の残存機能に合わせた楽しみ・生きがいをもてるように自立支援し損失感に陥りやすいといわれる入居者に対して「あなたが必要なだ。あなたがいないとダメ。」という風に生きがいを感じて頂けるような接遇のあり方を重視している。		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)		
	○入居者が今まで過ごされた家庭的な雰囲気や大切にしながら安全を第一に考慮した環境を提供するこ、専門的に訓練されたプロとして対応すること、介護に対して情熱を持ち続けられる職員の育成することを重視している。浴室はちょっと入居者が転倒しかけてもすぐ対応できるよう配慮されている。居間から食堂・洗面・浴室・トイレへと通行しやすいように入居者の動線を考慮した間取りになっている。 ○心身ともに安定してもらうための配慮としてその人の今考えていることを否定しないように職員がその方の要求に対応して、入居者の個別の生活ペースに合わせた役割を演じる支援をしていた。		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人で行えることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	

外部評価の結果

講評

全体を通して特に良いと思われる点など(記述)

○四季折々の彩りを感じることのできる山々に囲まれた落ち着ける環境に立地していた。建物の中は「木」を基調とした木の香りを感じられる空間である。
○代表者と管理者は認知症高齢者のグループホームとして「個々の生活を大切にした家庭的な雰囲気のある施設と介護運営」に力を入れている。具体的には、職員個々が認知症介護に対する情熱をもって自分自身の理念を持って介護できること、高齢者の安全を第一に入居者の心が落ち着くように「なにをしたいのか」「どんなことを思っているのか」など個々の気持ちの把握に努力してケアをすることを重視している。「自分から進んで台所の洗いものをすると落ち着かれる人」「お盆を拭くと落ち着かれる人」「常に独語を言われてその方なりの世界に居られる方」など認知症重度の方も居られたが、その方の思考を妨げないよう、個々が精神的に安定しておれるよう気配りしていた。介護困難のケースをものともせず笑顔でプロ意識を持って職員が対応されていることに感心させられた。
○入居者が精神的・肉体的に規則に拘束、束縛されていることなく自由にその人らしく生活していることが、職員と入居者の会話や、入居者それぞれが自然にその人なりの自己主張や自由に振舞っている行動から感じられた。
○代表者と管理者は認知症ケアの質の向上に関心が高く、初心者研修やホーム内外の継続研修に参加できる人員体制を保障するなど人材育成にも力を注いでいる。

特に改善の余地があると思われる点(記述)

認知症高齢者に対する高い「生活や介護技術」「介護理念の実践」が、将来的に、町内会や婦人会、福祉志望の学生など地域福祉の向上に寄与することを期待する。

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	ブライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)		
	○過去の生活歴や楽しみとなっていたことの経験に目を向け、個人を尊重しながら集団の中で役割がもてるように支援し、入居者が円滑な集団生活が出来るように配慮していた。 ○個人の「やりたいこと」、要求を阻害しないやり方でプライバシーの保護に努めている。例えば昼食時にも自室で介助を受けながら摂取している方や常に独語を言われている方へは、食事の時そっと傍からおにぎり食を差し上げて自然に摂取でき、気持ちの安定が保てるよう配慮するなど、その方に寄り添う介護支援ができていた。 ○入居者の記録は入居者の情景が展望できるよう居間のスタンドテーブルの下に棚に隠れて保管されており、ここで職員は記録をしている。職員が常に入居者から目を離さない介護を行っていた。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
33	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
34	地域との連携と交流促進	○	
35	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)		
	○代表者及び管理者は「人と人」とのつながりを大切にしており、その人に合った個別ケアを行なう為に職員の力量をしっかりと把握した上でサービスの提供を心掛けている。職員個々の感性と入居者の個性との相性にも関心が高いことが目の当たりになった現状や記録の内容からも伝わってくるホームであった。 ○採用後3ヶ月の初心者研修や、その後もスキルアップのため1回／年、必要な研修を受講し、研修内容を全職員で共有している。 ○代表者及び管理者は研修で新しい知見を得て自己研鑽に努めると共に、カンファレンスで若い人の意見にも耳を傾ける姿勢を持っている。また休憩室にフレンチブルの愛犬を飼うなどのストレス解消にも関心が高い。 ○現状に満足することなく、より良い介護サービスを目指して管理者が中心になって苦情処理の窓口を入居者の家族に紹介したり、事故報告書の記録を検討して問題発生防止につなげたり、積極的に改善していこうとする姿勢が見られた。		